

# 傾聴力で導く解決策

## 思春期の自殺予防支援者研修

### 相談者の心理など体験

### 「寄り添う」姿勢 大事に

思春期・青年期支援者向けの自殺予防研修が3日、石巻市中央のみやぎ生協文化会館アイトピアホールで開かれた。保健師や子どものサポートに関わる人らが、じっくりと相手の気持ちを聞き、問題解決に結びつける傾聴の能力をみがいた。

東日本大震災の影響を踏まえて自殺対策を強化する県の補助事業で、精神保健分野における学生の就学・就労支援を行うNPO法人Switch（スイッチ）仙台市の主催。本年度は県内4か所の開催で、石巻会場は保健師や社会福祉協議会の地域相談員、学生ら26人が受講した。精神保健福祉士で同NPO法人代表の高橋由佳さんは「思春期・青年期とメンタルヘルズ」と題して講義。精神疾患はがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病に並ぶ5大疾患で、日本人の11人に1人がわずらっている。とくに思春期・青年期は脳と体が急激に変化する第2次性徴（せいちよう）の時期で、受験などのストレスで精神疾患にかかりやすいという。

高橋さんは「未治療期間が長い方が症状も改善しにくい」と指摘。「若者はモヤモヤとした気持ちを他者に相談しない傾向があり、不調のサインに大人も気づきにくい。いかに寄

り添い、早期に解決に結びつけられるか」と述べ、問題解決に向けた姿勢から具体的な実行・評価などのステップを紹介した。

研修では3人1組の傾聴ロールプレイ（役割演技）も実践。それが相談の話し手と受け手、そのやりとりを客観的に見るオブザーバーを順番にこなした。受講者は勇気を持つて悩みを打ち明ける話し手側の心境を体験し、「自分自身の中に

問題を解決する力があとか大事」といった傾聴の要点をつかんだ。

英国の児童書「ピーターラビット」の世界観を表現した庭園が女川町地域医療センター同町鷺神浜の敷地内に完成し、2日、現地でお披露目式があった。

「女川復興ガーデン」と名付けられた庭園は、約20平方メートルの広さの中にモミジやツバキ、桜などが植えられている。年間を通して花が咲いていることが基本理念。ピーターラビットに登場するキャラクターターを描いた6枚の石碑なども飾られている。

庭園はピーターラビットをイメージキャラクターとする三菱UFJ信託銀行（若林辰雄

### ピーターラビット庭園完成

女川町地域医療センター 都内の銀行から移設

### 石巻市桃生地区 初午行事で防火祈願



### 地域伝統の厄払い

石巻市桃生町寺崎地区で2日、火伏せ行事の「初午（うま）」が行われた。道化や獅子にふんした若者らが家々を回り、地区内の防火を祈願した。

初午の起源は1877（明治10）年ごろに同地区で起こった大火に由来。悲劇を繰り返すまいと住民らが火災防止と厄払いで火伏せ行事を始めたといわれている。

この日は、朝早くから寺崎法印神楽保存会（小泉正之会長）のメ

傾聴ロールプレイに取り組む受講者



地域の家々を回って火伏せを行った